

年	組	名前
---	---	----

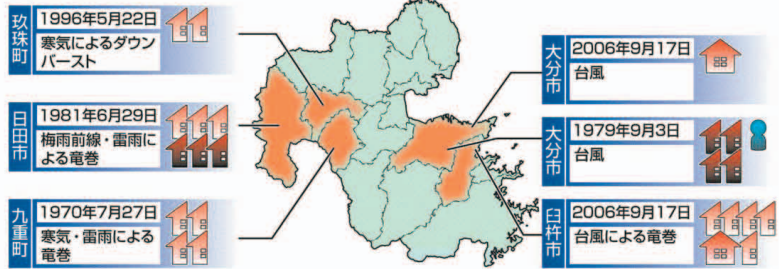
大分地方気象台によると、9月は竜巻など突風被害が多発傾向にあるといえます。

県内で確認された 主な突風と被害状況

(大分地方気象台調べ)

負傷者 = 1人	民家被害 = 全壊1棟 = 半壊10棟 = 半壊1棟
--------------------	--

※このほか2008年12月6日に竜巻1件が海上で発生した



突風被害に注意

竜巻多発の9月 06年は臼杵でも

積乱雲発生しやすく

千葉県で今月上旬、竜巻が発生したとみられ、3人が軽傷、住宅など83棟の屋根瓦がはがれるなどした。大分地方気象台によると例年、この時季は全国的に竜巻など突風被害が多発傾向にあるという。県内では2006年9月に臼杵市で6棟が全半壊する竜巻が発生しており、気象台は「防災気象情報に十分注意してほしい」と呼び掛けている。

気象台の調べでは、県内 解明されていない。で確認された主な突風は、沿岸部や気流を妨げる970年以降、7件。このものが比較的少ない平野うち3件は9月に起きてい、部を中心に、海から吹き込む。2006年の臼杵市のんだ風による気流の渦が、ケースは台風13号の接近に 積乱雲の強い上昇気流と伴って竜巻が発生。激しい 結び付くと竜巻になること風で民家の屋根が吹き飛 があるという。積乱雲からび、窓ガラスが割れるなど 冷えて重たくなつた下降して1棟が全壊、5棟が半 一流が吹き出す「ダウンバースト」が生じることも壊した。

竜巻は台風、低気圧、前線、気象台の立川真彦防災気象線の活動などで大気の状態が不安定になり、積乱雲が象徴は、突風被害が起きる発生すると起きやすいとき、兆しとして▽真つ黒な雲(積乱雲)が接近する▽雷

①民家被害の棟数が最も多かったのは、いつの、どこのケースでしょう。

.....

.....

.....

.....



竜巻で全半壊した臼杵市の民家 (2006年9月)

「兆しに気付いたら、頑丈な建物に避難するなど身を守る行動を取ってほしい。屋内にいても窓ガラスやカーテンを閉め、窓から離れて」と話している。

(2015年9月14日夕刊11面)

②被害の兆しとして、どのようなことが起こりますか。

③人の被害を防ぐ方法として、どのようなことに気を付ければよいと思いますか。話し合ってみよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....